



ハタラクヒト

*ペディア 3

<竹内浩哉氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

頑張ってるな（笑）・・・有森的な文具屋さん 竹内浩哉 氏

ご登場いただくのは 竹内浩哉さん です。

竹内さんは、刈谷市商工会議所に在籍され、
現在 トータルオフィス （有）タケウチ （専務取締役）にて、
OA機器、事務用品販売等のサービスを提供なさっています。

今日もいろいろお話を伺ってみました。

竹内浩哉 さん



おもに OA機器、事務用品販売

会社のモットーは

「1億円のご注文は喜んで、1円のご注文でもありがたく」

趣味： 司会、園芸

好きな音楽（曲）： ♪オワりはじまり（かりゆし58）

連絡先： トータルオフィス （有）タケウチ

電話番号： （0566）23-1006

メール： bungu-t@js3.so-net.ne.jp

◆ライフワークバランスがバロメーター

竹内浩哉さん（以下、敬称略）： 自分の仕事は、事務用品、事務機器をあらゆる会社に行って外商している。そういう仕事です。ただ家業的には、小さな感じで……。おやじがいて、おふくろがいて、自分、妻、そして従業員っていう会社です。なかなか自分の会社の中で、信念だ、理念だと説く場面はないんです。なので、そういったお話しはできないかと思うんですが……。

田中永子（以下、田中）： いえいえ。そんな、全然。

竹内： こう自分を振り返ってみると、仕事のモチベーションをあげていくその裏側に、同じものにかかるYEG（商工会青年部）ってあったり、地域的なものだったり。ライフワークがバランスよくあるってことが、自分のバロメーターなんですよ。

田中： うんうん。

竹内： 会社の中ですべて満たせるような大きなものがあれば、それは実績だとか、仕事の開発だとか。でも、なかなかそこで得られにくいものだったりする。で、そういったものを、いろんなところで有志を燃やせるものを見つけて、今までそうやって人生ずっと歩んできて。そういった話を、他の若いメーカーの子たちにしたりする。仕事の中でいろいろ見つけることができればいいんだけど、なかなかそれが見つけられないんだったら、仕事を続けるためのモチベーションを保てるライフワークを作ることとかね。それをするために我慢してるわけじゃないけど、それがあるとなんとなく気が晴れるよね。自分がイキイキできるものがあれば、充分やっていける。

田中： ですね。

竹内： あんまり深刻な話をしてもね、それはその人の感情も入ってきたりだとか、その人のやり方もあるし。全部がその人に添うわけでもないじゃない。で、自分の状態がいいと、相乗効果で相手の気分も晴れて気持ちよく一日が過ごせる。そうすると、こっちのモチベーションももっとあがって、そっちにかかる時間も気持ちよく費やせる。

田中： うん。そうですね。

竹内： 思うにぼくがいけなかったのは、家族に対して、本来であれば、自分の行動やよき支えになるってところが、自分の中では、ないがしろにしちゃってた部分があったなと。こうあるべきみたいな思いを押しついたりとか、そういうのが出てしまって、ぎくしゃくすると。

田中： 他のところにも影響しちゃいますよね。

竹内： まあ、YEGになってからはよくなったけど、前のJC（日本青年会議所）ってところは、イケイケどんどんだったもんですから、ちょっと大変だった。YEGに入ってから、家族にYEGでやってることとかの話をしつつ。そうして相手も理解してくれて。そうやってライフワークバランスを上手に取って行って、初めて全体がよくなった。

田中： じゃあ、今はそこらへんがうまくブレンドされてる感じで。

竹内： うん。これで一息ついちゃってるから……また自分の人生の中で何をしていこうかと（笑）

田中： 笑

竹内： 昨日は毎月一回のKATCHの中のラジオ番組の収録日だったんです。

田中： そこでどんなことをお話しされるんですか？

竹内： それはねえ、働くお父さんを応援するって番組なんですよ。「パパにラブソングを」っていうので。こう、雑談の中で話すことがリスナーの人に勇気を与えとか、そのままでもいいって思えるような、そういったことが発信できれば……というのから始まる。

田中： いいですね。

竹内： 仕事、仕事だけだと厳しいですからね。どこか自分自身、モチベーションを保てるように。

田中： いろいろに作ってらっしゃる感じがします。その、供給源というか。

竹内： モチベーションの供給源は、見つければたくさんあるんですけど。口にするだけじゃなくて実現してかないといけない時もあるじゃないですか。

田中： 例えば？

竹内： 地域で、YEGでやってきたこともあるし、人との中でジレンマも起きたりして、そこにはいろんな意見があって。委員会もいろんな立場の人間が集まっているわけだし。本来だと、そこに至るまでに詰める議論だとか、実際に行動しての実現力だったりとかを期待するような物語だったりすると、そこからもっとう、予期せぬことが生れるような。

田中： うん。

竹内： そういうことがあるはずだなあと思うんですけど、だんだん自分が年をとっていくと、保守的って言葉になっちゃうけど、定石かなってところから見てとか。

田中： 言葉は悪いけど、体裁をとりつくろうみたいな？

竹内： そう。そうなると、そこから動くできごとって、もう見えてますよね。結果も見えてるじゃないですか。結果以上のことは起こりえない。

田中： 生れない。

竹内： そう、生れない。

田中： 予定調和の中での結果になる。

竹内： そうそうそう。自分の中でも、周りの人たちでも、「失敗ありき」っていい方はおかしいかもしれないけど、何かに挑戦するのって望ましいかなって。

田中： 竹内さん、バランスを取りながらっておっしゃってますけど、実は結構、熱いものがあるって（笑）

竹内： あはは。見透かされましたね（笑）。

田中： 枠を超えたってものがあるんじゃないかとか。何かそれを期待してらっしゃるような。

竹内： ですよ。ま、それを一生懸命ひた隠しにしている、いやらしい自分もいるんですけどね。

田中： あははは。

竹内： 逆も言われるんですよ（笑）。

田中： うん。

竹内： 「何を考えてるのか、わからない」って。これだけモチベーションを上げるってスタイ

ルを見せているのに、「気持ちだけは底を這ってるんだね」って言われた時があっさ。

田中： あー、ちょっと乖離がありますよね。

竹内： そういうふうに、見られる時があるんだって。

田中： なんかもったいない気がしますね。

竹内： まあ、全部が全部大成功するわけじゃないからね。見栄えのいい、きらびやかなことばっかりじゃない。ほんとはそういった野望みたいなものはあって、まだまだそう思うこともあるけど。地道に、地道にっていう中で、実現していくこともね、意識していかないとあって。

田中： 私、そこはバランスな気がしていて。情熱だけだとぶつかって玉砕ってあるじゃないですか。

竹内： あるある。

田中： だから、そこにハンドルとブレーキは必要かなって思います。

竹内： うん、ですね。

田中： イケイケどンドンって感じだと「情熱だけを持っていけばいいよ！」ってなると曲がることできない。

竹内： そうですね。

田中： でも、命は守らなくちゃいけないから。ノーブレーキで曲がれなくてぶつかっちゃったらヤバいんで。

竹内： うん。

田中： だから、曲がり角がみえた時には、ブレーキを踏んでスピードを落とすことであったり。道に沿って方向を変えることができるハンドルってものが必要で……ポイントってそこだけな気がするんです。

竹内： うん、確かにそうですね。走っていて、道を間違えちゃうときもあるけど（笑）。

田中： うん、ひょっとしたら、間違えたって思ってるかもしれないけど、そこに行ったことで、見たことのないものを見ることができたかもしれないって思ったりするんですよ。

..... つづく ^^

◆保護司というボランティアの中で得られた大切なこと

竹内： 話が唐突になっちゃうんですけど、ボランティア役職で「保護司」をしていて。保護司って、ご存知ですか？

田中： はい。少年院とか出た人の身元引受人、後見人みたいな。

竹内： よくご存じで。今、その職名受けて、去年くらいからやらせていただいているんですけど、やはり理屈が通りにくい。そんな中で更生って環境作りをしていると、いろいろ自分の中で感じるものがあってね。人を導くっていう、人を導いてあげるっていう、自分の驕りが出てくるんですよ。

田中： あー。

竹内： よかれと思って言ってるんですけど、その「よかれ」ってことが驕りになっちゃう。彼らはそのこちらの驕りをスーッと感じ取るんです。

田中： 鼻が利くんですよね。

竹内： ええ。早いんですよ。で、逃げたりする。逃げるのは気持ちが萎えた時、落ちた時。その辺の関わりで、自分がどう冷静になってやれるか。悟られないようにとか……難しい。

田中： 悟られないようにというのは、相手にそれが伝わらないようにということですか？

竹内： 自分の心の動き、ブレとか。けっこう勉強させてもらってます。

田中： 何を気付いた感じですか？

竹内： まだまだ始めて間もないですから、なかなか口にするのは難しいけど。そう、自分の心の微かな動きが相手に反映してるなっていうことに気付きました。相手が自分を嫌ってるのではなくて、自分が嫌うところを見せてるから相手もこちらを嫌う。で、相手の欠点だとか弱み、そういったものが見える時は、多分、自分にそういうものがあるから、それをこちら側が引き出しちゃってるってこともあるなと。

田中： 鏡の法則……。

竹内： そう！

田中： 相手が見せてくれているものは、自分が相手に見せている。

竹内： わかってなんぼ。まだまだですね。まあ、そういったものを克服して仙人にならなくてもいいんですけど（笑） ちょうど今そういう過渡期の彼らと関わっているとね、気付かされます。

田中： そのお役目を通して、自分の振り返りの時間にもなる感じですね。

竹内： そうですね。

田中： 自分を突き付けられる。

竹内： そうです。なかなか言うことを聞いてくれないのはあたりまえですけどね。「よかれと思って接するのはやめろ」と先輩に言われたことがあってね。人の善悪でいけば、まずその子を善と見ることによって関わりとか。性悪説なら悪を見つめていった方がお互いにイヤな感情が芽生えなくてすむって。冷酷だなんて思ったんですけど……なんか暗い話になってしまってますみません。

田中： いえ、全然。性善説、性悪説ありますもんね。私も「鏡の法則」って世の中にある気がしています。自分は反映されてしまうものなので。

竹内： うん。

田中： NLPで「地図は領土ではない」という考え方もあるんですが、自分が持っている地図は相手の地図と同じではないってことなんですね。だから、この違いを認識してる人とそうでない人って大きく違う。それを理解できていると、スタンスが違ってくる。

竹内： よく「そう思え」って、屈服型で人にどうこうしちゃうことも時にはあったりもするけど。相手のスタンスをどれだけ理解するっていうか、まず相手にもスタンスがあるよってことを、いつも念頭に置いていられるか、いられないか。

田中： それって大事な気がします。

竹内： うん、大事。まあ、必ずうなづいてほしいって気持ちは、心のどこかで思っちゃうけど。なかなか大きな心持ちでやれない部分もあるんでしょうけど。

田中： いろいろな条件もあって、人も全く違うもので構成されているから。

竹内： そうそう。

田中： 状態も毎日違う。人もそれぞれ。全く同じものってない。

竹内： うん。

田中： 人が何かをなす時って、その人の心持ちというものが反映されるんだらうなって。

..... つづく ^^

◆自分が人に頼られるのが好きだから、人にも「頼っていいんだ」って強く言える

竹内： うん、今また、PTAの役が来て。今、一番下の子どもが高校生二年生で。小学校、中学校と芋づる式で、高校までPTAに（笑）

田中： 地元ですしね（笑）

竹内： そう、もう趣味かっていわれるくらい。この間も生徒に話をする機会があって、進路とか、先程の話じゃないけど、自分のやりたいことを持ちなさいとか、人生設計っぽい話をして。コミュニケーション、そして自立ってことについても話したんです。

田中： はい。

竹内： 自立ってという言葉、それだけを見ると「自分で凄く頑張らなくっちゃいけない。自分で考えなきゃいけない」と思ってしまいますよね。もちろん、自立できる子はいいかもしれんけど、迷いに迷う子にしてみたら、それはすごい負担だしね。今まで中学生だった子に、これから生きる術を身につけなくちゃいけない子たちに、愛ってところで「甘えてもいいんだ」って伝えたいね。そこで納得してくれたかどうかは別として。まだね、甘える時期だろうし。甘えることが、人と接する一番の武器になるから。「甘えても、だらしのないわけじゃなくて、人には絶対に甘えるべきだと思う。それが親であろうが、先生であろうが。甘えることは絶対悪くない」そういう話をした。まあ、実は、人を頼るってことが自分でもなかなかできない。

田中： 笑

竹内： だから、余計に「頼れ」って（笑） そうすれば、必ず誰か手を差し伸べてくれるから「絶対頼りなさい」って。

田中： その重要性を、すごく感じていらっしゃるんですね。

竹内： ああ、それは感じてますね。人に頼られるっていうと、おこがましいんですけど、自分は人のために何かするのって大好きなもんですから。それだからこそ、余計なこともしちゃう（笑） お節介っていえば、お節介なんですけど。頼られるっていい気分もあるでしょうし。

田中： 手を差し伸べるって感じですね。

竹内： そうですよ。相手が望んでないのに、手を出しちゃうこともあるんですけどね。お節介って場合もあるんでしょうけど。まあ、人間ってね、文字でいうように、人って支え合う、

本当にその通りで。

田中： 笑

竹内： 挫折なんてね、味わわなきゃなければ、味わわなくてもいいものと思ってる。

田中： あー、私もそう思います。諺とかで「苦勞は買ってでもしろ」って言ったりしますがけど。私、あれキライなんです。

竹内： うん。買わなくても、別にいいでしょ（笑）

田中： 来るものはくるから（笑）

竹内： 必ずね。

田中： 来た時にしっかり向きあえばいいじゃんって。探してまでしなくてもいい。

竹内： わざわざ自分からね。無理して。そうですね（笑）

田中： 笑

..... つづく ^^

◆若いうちは、感性を磨くような時間が大切

竹内： 今、思ったんですけど。学校の職場体験ってありますよね。

田中： はい。

竹内： 中学生の生涯学習の一環で、職場体験とか世間を知るとか。まあ、その体験自体は、きっといいことなんだろうと思うんだけど。その時間を使うのであれば、もっとその中学生という年代に合うような、感動を呼び起こすようなことに使って欲しいなど。彼ら彼女らの感性を磨くような時間や内容にしたほうがいいように思ってます。

田中： はい。

竹内： 人間、自分の道を決めつけることによって、障害にぶち当たる時間がどんどん早くなるじゃないですか。まだ、その障害に出会わなくてもいい年代で。17～18歳くらいで挫折した人生とか。そういうのを思うと「ゆるくいけ、ゆるくいけ」って思っちゃう時があるんですよね。まあ、それじゃいけないっていう人もおるかもしれんけど。そういった時に、人を頼って、人に自分の思い、悩みを打ち明けて解決して……そして、甘える。

田中： ですね。私は何かそういう挫折であったり、ぶつかったりとかを見た時に、SOSを出せる相手であったりとか、SOSを出せる方法、もっといえばSOSを出してもいいんだっていうことであれば、何をしてもいいと思ってます。

竹内： あー、うん。そうですね。そういった意味では今の世の中、ブログとか、ネットとか、そういったSOSのようなモノを出しやすい時代なのかなって感じがしますが、そうでもないのかな。

田中： うーん。あれはバーチャルなのでどうだろう。少なくともリアルじゃない。匿名性があるから、SOSを出したばかりに心ない言葉が来たり……諸刃の剣だとは思います。

竹内： そうですね。個人ブログとか読んでたりすると、文面の裏にある、言葉とは違う想いがあるのかなと感じることもありますね。

田中： はい。

竹内： 想像性を磨く、感性を磨くって大切じゃないですか。

田中： はい。それに、人って本当にお話しをしてみないとわからない部分がたくさんあって。

竹内： そうですよ。

田中： 言葉もそれぞれに持っているイメージが違っていて、そこの共通認識というか、それぞれに持っているものが違うんだっていうのがわかってきたり、お互いの共通項とかが見えて来たり、活動範囲が広がって来たりすると、面白い関係性になっていくと思います。

竹内： うん。そこで、今まで自分になかったものが出せるようになるといいですよ。

田中： ですね。その人が本当に思ってることをお話しすることって一番のプレゼンだと思っています。

竹内： そうですよ。

田中： 人って、自分を知ってもらいたいって部分が凄くある気がしていて、それをお話しして、受け入れられた時って、その人が凄く癒される、よかったなって思える時間だと思うんです。

竹内： うん。

田中： 自分の体験を共感を持って聴いてもらう、そういう体験が増えて来ると、自分のことを周りに話せる勇気につながると思います。

竹内： うん。勇気にね。さっきの更生保護の話じゃないですけど、有名なところで「ダルク」ってありますよね。

田中： はい、ありますね。

竹内： そこでは、覚せい剤とかに手を出してしまった人たちが、ただ語り合う。それは最終的に結論がない。こうなさいとか、こうしなくちゃいけないではなく。ただ、今思ってることを話せるか、話せないか。それと同じで、YEGや仕事でも、しっかり方向付けや起承転結をつけて話をする場面が多い中で、なんとなく、言っぱなしでもいい、結論を出さなくてもいい場面があるといいなあと思います。

田中： そういう場ってとても大切な気がします。

竹内： うん。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

竹内さんにもインタビュー後おつきあいいただきました。
まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

．．．．． つづきは竹内さんの

おこたえデス ^^

田中：あと、いろいろお聞きしていいですか？

月並みですが、小さい頃はどんなお子さんでしたか。

竹内：あ、今と変わらないです。ポジティブ思考で。それは弱みを見せたくないってことの裏返しかも。

田中：今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

竹内：横並びでいろんなものはあるんですけど。いい意味で大変ってことで。家族を持ってそれを維持していくということは大変かな。

田中：なった時が大変？ ご結婚とか。それとも維持していくことが大変ですか。

竹内：もちろん、維持していくことですね。結婚してからののが長いですから。いいことも悪いこともあるわけですし、家族をどう支えていくかという、ひとつの大きな宿命じゃないですか、そうしたからにはね。ぼくにとって、家族ってなんでいいかっていうと、分かり合えない人間同士が伴にいる。いられるってことが最大の魅力で。矛盾が溶けちゃうような関係だったら、他人でいいわけじゃないですか。

田中：あー。

竹内：ストレートにわかりあえるような関係ではなくて、矛盾がある関係なのに、どうして一緒にいるんだ？ っていう、そこがすごい魅力。

田中：笑

竹内：なかなかね（笑）。それを言うとなんか「それはあなたの勝手な考え方」って一蹴されるんだけど（笑）。

田中：あははは。わかり合えない部分を持ちつつ、それでも一緒にいるっていう。

竹内：そう、それが魅力。「それはあなたが都合勝手なことをしたいからの考えでしょ」って言われちゃうんですけど。

田中：そうではないと？

竹内：そうではないと説明したいんですけどね。行動がそうなんでしょうね（笑）。

田中： 面白いです。それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか。

竹内： いやあ。

田中： あ、でも大変って感じじゃないですね。それを持ってることすら、楽しみって気がしませんね。

竹内： そんな感じですね。まあ、その一瞬一瞬は悩みますけどね。

田中： その時、大切にしていたことは何ですか。

竹内： 何だろう?? 愛情かな。

田中： これ、私が感じたものなんですけど、もやもや感というか、それを持ってるのが楽しいのかなって。好奇心というか（笑）。

竹内： あ、でも段々にしわ寄せがあって、それがもやもや感につながるから、どこかでダムが決壊する。

田中： 決壊するんだ。

竹内： 結論先延ばしってというのは、やり口なんですよ（笑）

田中： 先延ばしして。 あー、こう我慢した方が喜びが大きいとか（笑）。

竹内： そうそう。そんな感覚がある（笑）。

田中： 持ち越した時の快感っていうものの方が大きいんじゃないかって、期待度がある感じですかね。

竹内： うん。それって相手にとっては持ち越されたってことでね。自分にとっては持ち越したってことで（笑）。あとはサプライズ的なものも好きな部分があるので、どこかで恩返し
の機会を作るんですけど。

田中： ケンカのあとの仲直りは楽しいみたいな感じですかね。

3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

竹内： またそういう難しいことを（笑）。 3つですか。全然持ってないな。健康が第一ですから。つまらんなー。

田中： 竹内さんって、結構いたずらっ子っていうか、そういう部分ありますね。いい意味で裏切りたいていうか（笑）。 ありきたりはイヤみたいなの。

竹内： あー、それはありますよ。絶えずそういったことばかり考えてます。

田中： 思いもかけないのが大好物みたいなの。

竹内： あー、そうかもしれないですね。それはひそかに自分の中で隠し持ってるところかもしれないですね。

..... つづく ^^

田中： 人と会う時、付き合う時、その人のどんなところを見えていますか。

竹内： 最近、ひとつのポイントは「しぐさ」なんです。なんて言ったらいいのかな.....動き。今まであんまりそうは思わなかった。あと、言葉尻や考え方とか、そういったところにその人の本性ではないけど、そのようなものが出ることがあると思います。

田中： 何かそのきっかけになるようなことってあったんですか。

田中： それはしょっちゅう、仕事柄あるよ。気になるお年頃っていうか（笑）

田中： 人として、これは譲れないでしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか。

竹内： 結構譲ってるし。

田中： 笑

竹内： 受けた恩は必ず下に流すっていうことかな。譲れる譲れないじゃないですけど、それは自分の中でやっていきたいこと。

田中： 大事にしてらっしゃる部分なんですね。
落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか。

竹内： 落ち込んだ時には、徹底的に落ち込みますよ。

田中： うーん。いいっすね（笑）。

竹内： それの方が楽。

田中： それ、理にかなってると思います。

竹内： うん。余計に張り切ったりって、面倒くさいですから。

田中： とことん、底をつくまで。

竹内： 底をつくまで。で、じりじりと薄目を開けていけば少しずつ周りが「しょうがないな」って（笑）

田中： あははは。

竹内： 周りが変わってくれたりするんで。どっかで見計らって目を開ければ、浮かんで来るのかなって（笑）

田中： 充分周りにSOS出してらっしゃる感じがしますよ（笑）

竹内： あははは、だね。

田中： 何をしている時が一番楽しいと感じますか。

竹内： いやあ、やっぱり、さっき言ったけど、人のことを考えて、何かする機会があるっていうのが一番いいですね。対象はいろいろですけど、何か仕掛けてく。そういう機会はこの上ない至福。

田中： いやあ、エネルギー上がる感じですね。

竹内： こればかりは上がるね。その中で自分が、なり手になるっていうのはないんですよ。昔はそういったところもあったんですけど。「何かやろう」ってなって、歌を歌うとかいろいろなシーンを作って。でも、歌のシーンの中の演者になるのは、ぼく、だめなんですよ。

田中： あー、仕掛け側なんですね。

竹内： 仕掛けなどにいそしむところが一番。

田中： 楽しい？

竹内： 楽しい。

田中： そこ面白いです。その人の役割的なものもあるかもしれないですね。演者をやりたいっていう人もたくさんいるわけだし、こうやって仕掛け側になりたいっていう人もいて。

竹内： そうそう。そうすることによって人が喜ぶことであったりとか、もうわっくわくですね（笑）

田中： 今、一番欲しいものは何ですか。

竹内： 欲しいものですかあ。まあ、Y E Gも卒業しましたから。またそういうことがやれるような、そんな機会、場所等があれば.....それが最大の欲しいものかな。

田中： そうですね。それが竹内さんにとってのステージなのかも。

竹内： そうかもしれませんね。そういうのが、欲しいかな。

..... つづく ^^

田中： 今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい

竹内： ひとつはYEG。会長をやらせてもらったことは大きかった。さっき話したプロデューサー側に回りたいていということにつながるんだけど、人を神輿に上げるのが大好きだったんですよ（笑）それが、初めて、それまで避けて通ってきた「長」という役になり、祭り上げられる側になって。

田中： 神輿に乗った側ですもんね。

竹内： そう、乗った側の感じ方を味わったのは大きかった。今まで気付かなかったことが多かった。

田中： どんなことに気付いたんですか？

竹内： うーん。神輿を支えている人以上に、神輿に乗っている人が、何らかの想いをどう噛み殺して、その場にいるのか。なんて言うのかな.....力とか考えとかね。

神輿に乗っている人もきっといろんな気持ちがあったんじゃないかなって気付きました。

神輿を支えているこっちは楽しんでやっていたんだけど、神輿に乗っている人に度量がないことには絶対に認められないことだったんだろうってことは、自分がやってみて初めてわかりましたね。

神輿に乗っている人にどれだけの器や度量があったからこそやれたのかという視点かな。そして、自分がその神輿に乗る立場になった時に「ゆとりってものを持たないとキリがないんだな」って気付いたというか。もちろん、役をやったからって、できたわけじゃないけども、一生懸命考えながら、悩みながらやりました。「神輿に乗せられたからには」って、立ち位置を考えながらやったのは大きかった。

田中： うん。

竹内： あと、これは初めて言うんですけど、バンドやってまして。

田中： はい。

竹内： 一応全国大会まで行って.....。

田中： え？ 凄い！！

竹内： そういうことがあって、その時は結構、輝いてましたね。

田中： 何歳くらいの時ですか？

竹内： 大学の時ですから、21歳の時ですね。ポプコンってヤツの対極にある、ヤマハがやっ
てる大会があったんです。

田中： パートは何をやってたんですか？

竹内： すみません（笑）。ボーカルです。

田中： え？ もろ演者じゃないですかー（笑）。

竹内： もろ演者ですよ、その時は（笑）。

田中： 面白いですね。演者経験して、今度はプロデュースなんですね。

竹内： あー、でもそうですね。

田中： 演者としてステージを経験して、今度プロデュース側にスイッチしたみたいな感じなん
ですね。

竹内： そういふことでしょうかね。演者でも、守らないといけないことは守らなかったですけ
どね。

田中： あははは。

竹内： ワンステージ1時間のうち、50分位はしゃべってましたからね（笑）。

田中： 面白い！

竹内： まあ、それがひとつの転機というか、自分の原点もそういうところにあるんだなって。

田中： その大きな経験がふたつとも演者っていうところがキーポイントですね。

竹内： まあ、そうですね。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか。

竹内： 全部一緒になっちゃいますね。人が喜んでくれるってこと。それがひとつのバロメーター。自分のモチベーションを保つ場になってる。

田中： 今死んでも悔いはありませんか。

竹内： あ、それは全然！ 悔いはないです。

田中： あはは。そんな感じですね。

竹内： 「死、来た」って感じですし。別に死にたいとかじゃなく。ぱっと逝っちゃう。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか。

竹内： 制限がない（笑）。 そうなったら、普段通り生きてますね。さらっと逝くでしょうねえ。そう逝きたいなあ。

田中： 世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか。

竹内： 何を言うんですか？

田中： 私が聞いてるんですよ（笑）。 浮かばない感じですか？

竹内： 浮かばない感じ……じゃなくて。愛とか、人類は……って、よく言われてるのはない感じで。それぞれに理由はあるわけですよ、さっきの話じゃないけど。いろんな立場とか、考えだとか。あんまり世界に発することないかも。

田中： なんか「それぞれでいい」みたいな感じなんですかね。

竹内： ですよ。絶対違うんですから。

田中： 今浮かぶんだのが「金子みすゞ」さんの詩。 「みんなちがって、みんないい」とか。

竹内： そうそうそう。ちょっと質問の答えになってなくてすみません。

田中： いえ、全然です。

..... つづく ^^

田中： 生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

竹内： これ、難しい（笑）。 でも男でしょうね。

田中： どんなところで（笑）？

竹内： まあ、面倒くさいところがいいじゃないですか。自分が自分で男ってところが。

田中： 竹内さんって、淡々としていらっしゃるようだけど、攻めか守りかっていったら、攻めなタイプじゃないですか？

竹内： ですかね？ 文言多いですよ。

田中： 守るところと攻めるところが、結構自分の中で明確になってる感じ。

竹内： さっきの結論先送りじゃないですけど、土壇場にならないとならない、みたいな。

田中： うん。力を蓄えてるのかもしんない。攻撃にスイッチした時に、発揮できるように溜めておくみたいな。

竹内： 本来なら、そういうのではなく、ひとつひとつをパンパンパンとやっていければ、絶対いいと思うんですけど。買い物と一緒にすよね。直感的にいいものがあれば買うって決めていて。でも、もうちょっと見て回ったらいいのがあるかもって。一周しっかり回ったらいい買い物ができるって……。正論みたいですけど、最終的にはあんまり当たってない。

田中： あはははは。当たってない（笑）。

竹内： 迷うだけの話になっちゃうんですよ。

田中： うんうん。

竹内： これは自分のことですよ。人に対しては、あくまでも「こうしろ、ああしろ」って言うっちゃう（笑） 人には、直感が働いて言えるんですけどね。

田中： あははは。ご自分のことになると、その鼻が利かなくなる（笑）。

竹内： そう、鼻が利かなくなる（笑）

田中： 世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、何を消し去りますか。

竹内： ふふ。消滅（笑）。 じゃあ、まあ、携帯電話。

田中： へえ。ちょっと意外な感じ。

竹内： うん。あえて、携帯電話。

田中： それは何ですか？

竹内： いやあ、ネットもないということでの状況ですけど、想いとか言葉を伝える手段が滞ったりして、こう、ジレンマが起きたりするじゃないですか。人のイマジネーションとか。想像をかきたてるとか。

田中： 何かさっきの、我慢したあとの快感が大きい、みたいなのを感じました（笑）。

竹内： あ、うん（笑） それに近しいものかも。

田中： もどかしさが、会いたい気持ちを。

竹内： ありますよね。歌とかの歌詞とかでも時代が反映されてる。公衆電話の時代、その電話の前後を想像したりすると楽しいじゃないですか。今の世の中もあるとは思いますが。

田中： ないことで、考えざるをえないってところがありますよね。なんか彩りのような気がします。

竹内： 安心がありそうでなかったり、みたいな。逆に信じるってことでもありますよね。

田中： うん。

竹内： 携帯があるとね、その信じるってことをしないで、ついコンタクトを取っちゃおうってすることがある。

田中： 面白いなあ。携帯電話ってのは、初めてです。

竹内： あ、そうすか（笑）。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

竹内： それはもう、浩くん（前出の鈴木浩さん）に聴いてもらった方がいいかも（笑）。

田中： 自分のキャラを一言でいうなら？

竹内： お調子者ですよ。

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、何ですか。

竹内： あー、やっぱり家族としときますかね。無難ですよ、それが。

田中： それは（笑）。これがアップされた時に、答えとして無難ってことですか？

竹内： そうですね。

田中： じゃ、それがない、オフレコとしたら？（笑）。

竹内： それもないですよ（笑） 家族でしょ、やっぱり。

田中： 家族ですよ。じゃあ、そういうことにしときます（笑）。

竹内： ええ、そうしてください（笑）。

田中： 今日のこの時間で、何か気付いたことなどがあったら教えてください。

竹内： うん。結論や方向性がない状態での話をするような場面って、とつてもね、今日もありがたい時間で。「こうしなさいっていうお話しかな」って思うじゃないですか、最初から、確実に。

田中： 笑

竹内： それがない中で生れるものが、結構ある。そんなお話しの方を誰かにしてあげたいなど。

田中： 何が生れた感じですか？

竹内： うん、生れたっていうよりは……うん、自分も頑張ってるなっていう（笑）。

田中： あははは。そうですね。頑張ってるんですよ。有森じゃないですけどね。

竹内： 褒めてあげたいっていう（笑）。

田中： 今日本当にありがとうございました！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト＊ペディア 3 < 竹内浩哉 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/73529>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73529>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73529>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ